

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	0171600265		
法人名	有限会社 グループホーム・和		
事業所名	グループホーム・なごみ		
所在地	桧山郡江差町字田沢町492番地3 (電話) 0139-54-5753		
評価機関名	(株) 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1番地		
訪問調査日	平成20年3月13日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】 (20年2月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤 9人 非常勤 8人 常勤換算	8.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1, 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費15,000円 暖房費(10-4月)5,000円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 含む 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年 2月 1日 現在)

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 79歳	最低	63歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北海道立江差病院 佐々木病院 カモメデンタルクリニック
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は江差町のやや北部に位置し、対岸に奥尻島を眺め日本海に面している。1988年ふるさと創生基金として政府より全国市町村に交付された1億円を元に江差町が掘り当てた温泉が今、隣接する姉妹ホーム「あかり」に分水された。誕生したこの温泉は、ホーム利用者はむろんのこと、地域の高齢者も利用し、地域との交流に大いに役立っている。また、運営者は職員を研修に出し、働きながら学ぶ喜びの機会を与えており、それにより減少した職員の補充を自らで補っている。どの職員も感謝しており、一層努力していきたいと話されたことがとても印象に残った。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化や終末期に向けた方針の共有については、今回もまた改善課題となった。利用者のかかりつけ病院の9割が、道立の医療機関であり、医師の毎年の異動が多い。したがって密な介護相談は出来ていない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 月1回の全体会議において、自己評価も含めて具体的検討がなされ改善に向け努力している。当事業所では、1名の利用者が成年後見制度を活用している為、今後、全職員の勉強会を予定している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回実施される運営推進会議の中で、①利用者が安心・安全の生活を ②利用者地域の高齢者が偏見なく生活出来ているか、この事について具体的に話し合っている。(会議録) そこから ①理念にそって個別的ケアをと心がけ、②地域高齢者を温泉に招待したりして、共に過ごす時間を大切にすることを繋げている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営者は家族の意見等前向きにとらえており、家族会時には、家族のみにて自由に話し合える場を設けている。また、代表より出された意見等は、全職員で討議され早速実行に移されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	老人会への参加を始めとし、近隣の保育園児がホームを訪問して、歌やダンスを発表し、そのお礼に利用者から雑巾が贈られたりした。又、小学生に花笠音頭の花笠作りを教わり、利用者がその花笠で踊りを披露したりもしている。何と言っても地域の高齢者が利用する昨年新設されたホームの温泉入浴は、地域の方と利用者との偏見のない交流が出来ている事を示している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての独自の理念をつくり上げているが、更にそれを誰にでも分かり易くした内容につくりあげていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングで必ず話し合っている。個別ケアに対し特に注意し、それを全職員が共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の町内老人会にホームを利用していただき、それを利用者と共に楽しんでも。又地域の高齢者には、昨年新設した温泉を提供し交流を深めている。		近隣の保育園からご招待を受け行事に参加させていただいたお礼として、利用者が雑巾を手づくりし届けたり、地域との交流はしっかりと行なわれている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回の全体会議により、自己・外部評価の具体的な検討がなされている。会議録があり、改善に向け努力されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行われて来た運営推進会議も4回目になる。自己・外部評価なども議題にし、問題点は議事録に記録すると共に、コピーをして全職員に配布、早期改善に向け努力している。		家族代表、町内会、町内老人会、江差町、社協、運営者、管理者、包括支援センター
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議がきっかけとなり、町役場福祉課との意見交換はもちろんのこと、包括支援センター職員との情報で職員の研修会等が、利用者へのサービスの向上につながる結果となっている。尚一層の向上にむけ努力を期待する。		運営者で管理者でもあるホーム長は、最近、近隣の高齢者より悩みや希望などの相談を受けるようになったという。記録にはしていなかったが、「地域密着型」という観点から考える時、期待は大きい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の現状をお知らせしている。3ヶ月に1回のケアプラン見直しについては、変化が見られたそのつど家族と相談の上、計画書を送付している。尚金銭出納帳と領収書及び家族のサイン捺印確認。領収書の原本は家族に送られていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時には、全体での話し合いを終え家族のみの時間をとっている。その会話の中で出された意見を、職員全体が反省し改善、実行に移行されている。その内容は後日、三者会話という形をもって家族と話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設から4年7ヶ月目に入っているが、この事業所における退職者は2名であり、共にお産の為の退職である。利用者もそれを十分承知しており、新入職員にしても研修という形をとり顔馴染みになる期間を持つ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所外研修として札幌方面へ2泊～3泊の研修にも参加させている。所内研修も段階的に行われている。また全職員の資質向上に向けた研修時間の補充として、運営者自らその任を受け持っている。研修者は報告書を提出し全職員が共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援や、保健所主催の研修は行われているが、内容としては受身の研修が多く不十分である。職員の資質向上を望む運営者としては、周辺グループホームとの相互研修、交流を望んでいるが、隣接するホームとの距離があり過ぎ、相互訪問としての研修会につなげるのはむずかしい。	○	南北海道グループホーム協議会等で開催する研修会が、檜山管内各地を回り順で開催することが出来ないか、検討されることを望んでいる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が利用されるまで約1ヶ月程の時間をかけている。今迄、自宅において関わってこられた知人、友人も含めてホーム見学など一緒に過していただき、徐々に雰囲気になれてもらう様工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	孫のような職員が常に感心すること、それは何も見ないで、その場に合った「格言」をすらすらと話してくれること。昔話や懐かしい歌など教わることが多い。また江差追分の替え歌を10番迄つくられた方がいて一緒にその唄を楽しんでいた。アットホームな雰囲気であった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まず家族から本人の情報を得て職員が把握しているが、前夜からの経過を朝のミーティングで話し合い、一日の予定を決めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個人の介護計画書が作成されていて、日常生活が密に記録されている。本人に異変が生じた場合、家族と連絡をとり、介護計画の変更へと移行している。全職員がそれを把握している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一部、センター方式を取り入れた介護計画の細やかな職員の目線は、利用者の小さな異変をも見逃さず、素早く対応出来ている。この見直された結果は家族と共有されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望により、受診、買物、友人宅への外出支援など柔軟に支援されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療関係については契約時に家族と十分な話し合いが持たれていた。介護連絡票に細かく記録されていて、万一他病院の他科を受診される場合においても家族の了解を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との話し合いにより、利用者が急変の場合、かかりつけ病院への受診となっているが、現在、事業所、家族、かかりつけ医等と、重度化、終末期に向けた話し合いには至っていない。	○	都会と僻地医療の格差があまりにも大きいことに運営者は苦慮している。多数の利用者が道立の医療機関を利用しているが、毎年のように医師の異動があり、親密な相談は出来ていない。どうか早い時期に運営者、家族、職員三者において医療機関の変更をも含め知恵を出し合ってと願う。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は毎朝のミーティングにおいて、理念に基づく個人の尊厳について話している。特に言葉遣いや、トイレ誘導などの対応に配慮している。尚個人情報記録等は厳重に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の挨拶とお茶会は全員の日課になっていて、この時の個々の表情などで調子を考え、一日の予定を立てているが、あくまでも本人の希望を優先している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全利用者が自分の好きな食べ物を絵にしている。カレーライス、魚が1位、2位であった。山菜採りをしたり、それを調理したり、楽しそうな笑顔がアルバムに残してある。食事の時間も和気あいあいと家庭の雰囲気の中で片付けをしていた。		散歩中、すでに落のとうを採り、今年初物で天ぷらを楽しんだと利用者の方がうれしそうに話してくれた。又食材についても、必要な分量の新鮮な品を購入することに気をつけている。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隣接する新ホーム「あかり」に江差町より分水された温泉が施設されたことにより、利用者はもとより職員も一緒に温泉を楽しんでいる。又希望によりホーム内のお風呂も自由に入浴出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日のホーム内の掃除、食事の支度等、それぞれの受け持ちが決まっているようになったが、何といても畑仕事の得意な方が多い。皆満面笑顔で収穫した野菜を見せている写真がある。気晴らしの支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事予定表がある。日常的に「散歩訓練」と名付け、山行き350m、川行き650m、学校行き1200m、と個人差を考慮して外出の機会を増やしている。お花見等アルバムにて確認。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間8:00～翌朝5:00迄、防犯を兼ねた施錠時間としているが、日中の施錠はない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルの作成あり。職員の消火器使用法など訓練されている。年2回の消防署立会いのもとでの訓練は4月を予定している。今回の主な訓練目的は夜間想定訓練となる。尚近隣のご協力を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ファイルには、食事、水分等の摂取量はむろんのこと、バイタル等も細かく記録されている。又栄養のバランスなどは保健所栄養士の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に掲げられた看板、居間に据えられた一枚板の檜木のテーブル、天窓から降り注ぐ陽光、更には娛樂室としている部屋にはタタミ式の椅子が置かれ、明るく清潔であった。利用者の共同作業で作られたという鯉のぼりや書等が飾られ、居心地の良いように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ち入れた自分用のベッド、テレビにダンス、配偶者の写真、採光を考慮して建てられている居室等は明るく暖かいものになっていた。すべて利用者の居心地良さに配慮されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。